

山口東京理科大学薬学部設置促進  
並びに利活用調査特別委員会記録

平成28年12月6日

【開催日】 平成28年12月6日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午後1時～午後1時52分

【出席委員】

委員長	長谷川 知 司	副委員長	吉 永 美 子
委員	岩 本 信 子	委員	大 井 淳 一 朗
委員	杉 本 保 喜	委員	中 村 博 行
委員	山 田 伸 幸		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	尾 山 信 義	副議長	三 浦 英 統
----	---------	-----	---------

【執行部】

総務部長	今 本 史 郎	成長戦略室長	大 田 宏
成長戦略室副室長	大 谷 剛 士	成長戦略室職員	平 田 崇

【事務局出席者】

事務局 長	中 村 聡	主査兼議事係長	田 尾 忠 久
-------	-------	---------	---------

【審査内容】

議案第128号 山口東京理科大学薬学部増築工事(杭工事)請負契約の締結について(成長)

---

午後1時開会

---

長谷川知司委員長 では今から山口東京理科大学薬学部設置促進並びに利活用調査特別委員会を開催いたします。最初に審査内容ですが、お手元の資

料にありますように、議案第128号山口東京理科大学薬学部増築工事（杭工事）請負契約の締結について、執行部のほうから説明をお願いいたします。

大谷成長戦略室副室長 それでは議案第128号山口東京理科大学薬学部増築工事（杭工事）請負契約の締結について、御説明いたします。これは、山陽小野田市立山口東京理科大学に平成30年4月に薬学部を新設するため、薬学部校舎等の建設工事に着手しようとするもので、去る11月15日に指名競争入札を行いましたところ、3者が応札され、6億480万円をもって、「嶋田工業・ヘキムラ興業・エム・ビー・オーシステム特定建設工事共同企業体」が落札しましたので、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、当該工事について、落札業者と請負契約を締結するため、議会の議決を求めるものであります。工事代金につきましては、平成28年度分が2億4,190万円、平成29年度分が3億6,290万円となっています。工事期間は、本契約の締結後から平成29年5月31日までとなっており、既製コンクリートくい工法で、491本のくいをくい打機3台にて施工することとしています。以上、御審議のほど、よろしく願いいたします。

長谷川知司委員長 何か質疑がありましたら。

山田伸幸委員 まず、指名競争入札ということになったんですが、これの指名した業者は何業者で、実際に応札してきたのは何業者ですか。

平田成長戦略室職員 入札指名業者は、3社でございまして、応札が3社ございました。

山田伸幸委員 契約の相手方を見るとですね、以前厚狭川のときにこれはくい打ちではなかったんですが、矢板工事だったんですが、工事をやり直す

ということがあったんですが、その辺についてのこのくい打ち、事業に対するですね、実績等についてはいかがでしょうか。

平田成長戦略室職員 工事の実績ですけれども、私もちょっと20年ほど現役からちょっと離れておりましたけれども、私の現役時代には図書館は、嶋田工業さんがやっておられますし、ヘキムラさんも橋脚であるとか、橋台のくいであるとか、実績も十分に積んでおられるようでございますので、業者については問題ないというふうに考えております。

杉本保喜委員 くい打ちの現状についての質問いいですかね。まずA棟、B棟っていうふうにあるんですけど、基本的に私の考えだとA棟もB棟も同じような大きさというふうに思っていたんですが、くいの数1本、A棟は多いですね。この理由は何でしょう。

平田成長戦略室職員 くいのA棟とB棟の比較というのは特にしていないんですけども、それぞれA棟、B棟吹き抜けというのが1階と2階部分で吹き抜けということがあります。くいの本数を決めるに当たっては、柱1本当たりに掛かる荷重に対して、くいが何トンもつから何本しますよっという、単純に割り算で決めるんですけども、吹き抜けが多いということにつきましては、その分の床荷重が入ってきませんので、それぞれの部位で少しずつ違った集計で1本違うんだというふうに理解しております。

杉本保喜委員 右側の図面でA棟、B棟のくいの数を見てもですね、どこが1本多いのかなってというのがそれは見つからないんですけど、今言われる吹き抜けのところが1本なくていいんだよっというんだと、逆に今度は矛盾するんですよ。吹き抜けのほうはA棟だけでしょ。

平田成長戦略室職員 B棟も図書館であるとか、大講堂であるところといったものがございます。ちょっと今、私も比較、すぐに御回答申し上げます。

ができませんので、後で回答するという事によろしゅうございまいしょうか。

杉本保喜委員 渡り廊下のところが10本ということなんですけれど、図面を見て左側のほうですよね、西側のほうになるのかな、こちらのほうがくいが2本ずつ多いんですよね。西側に、右のほうと比べるとですね、これは何か意味があるんですか。

平田成長戦略室職員 意味というか、こちらのほうに重量が掛かっているので、単純に柱に対する荷重がこちらのほうがよく掛かっていると、後ろ側のガラス張りなんですけども、荷重分布によって両サイドが増えているというふうに理解しております。

長谷川知司委員長 対称じゃないということですね。（「はい」と呼ぶ者あり）

杉本保喜委員 それとですね、いわゆる古洞が、この図面を見ると均一にくいをそれぞれに打っているんですよね。そうする例えば古洞があった場合には、増さなきゃいかんというような考えが出てくると思うんですけれど、基本的にこれそれぞれに1本ずつっていうふうに思えるんですが、そういうふうに思ったときには古洞はなかったっていう考えでいいんですかね。

平田成長戦略室職員 古洞は中央部分に60センチの層厚で22メートルぐらいのところに出てきております。古洞につきましては、一応古洞を貫通したその下の地盤、これを支持地盤にしております。ですから想定ではこの地質調査をやった折にはちょっと変な話なんですけれども、この位置に、このレイアウトで建物が建つということでの地質調査の位置を決められませんでしたので、一応6本ほど想定ということで打っております。想定で打っておるんですけれども、その中で古洞が出たところから、やはり古洞の深さについては一応それを結んで線を引きまして、2メー

トル深さのところまでくいの長さを進めているということでございます。図面のA棟、B棟の右側のほうには層厚の50センチの炭の層がありますけれども、これは掘ったような形跡がなくて、A棟とB棟というふうに書いてございますけれども、この辺りは60センチで古洞が出てきております。右端とその中央部分について、どの辺で古洞が出なくなるのかってというのは、これはちょっと確認ができませんでした。

杉本保喜委員　そうするとこの491本で全てが終わるんだという物の考え方でよろしいってということですかね。

平田成長戦略室職員　491本で終わるというふうに考えております。継ぎくいが当然22メートルありますので、継ぎくいも2本、3本ということであつないで、22メートルを3本くいであるとか2本くいであるところであつないでやっております。

岩本信子委員　落札率をお聞きしたいんですが、どうでしたか。

平田成長戦略室職員　落札率は6億400万が5億6,000万円で落ちております。消費税を外しております。（発言する者あり）約93%ぐらいになります。（発言する者あり）92.7%でございます。

岩本信子委員　落札率は92.7%。90%台ですが、私もいいか悪いかよく分からないんですが、これくいを打つ、3台の機械で打たれるということなんですが、どうなんですか、音とかいうのは、例えば授業していませんよね、それからこの御近所とかありますよね。そちらのほうに対して一気に3台一緒に動かすということになると、すごい音がするんじゃないかと思うんですけど、その点の対策とか何とかは分かるんですかね。

平田成長戦略室職員　最近の重機は超低騒音型という重機を使います。それから、危惧しておられる、掘っているときの音というのは、電氣的なモー

ターでぐりぐりぐりぐり押し進めていきますので、そばにいても重機が  
がらがらやっているとか、そういうような印象のものではございません。  
したがいまして、授業には差し支えないと考えております。打ち方です  
けれども、ドリルで土の中に、ドリルで泥を上げまして、くいを落とす  
んです。

山田伸幸委員 音の心配はないということなのですが、相当な重量の物を運ぶ  
ということになると、道路の耐荷重だとか、搬入経路ですね。北側から  
入るのか、それとも南側から新たに入っていくのか、その点はいかがで  
しょうか。

平田成長戦略室職員 搬入経路につきましては南側の県道から入るように考え  
ております。何分にも、くいも重量がございます。それに加えてく体で  
使う既製品の柱だとか、はりだとか既製品の重量物をトレーラーで持つ  
てまいりますので、一応くい有的时候には、これは大丈夫だよとくい屋さ  
んが言っていたので、鉄板敷きは考えてなかったんですけども、く体を  
やる折にはかなりの重量物が同じところを、トレーラー走るものですか  
ら、これは鉄板敷きを考えております。仮設の進入路の位置は図面で体  
育館というのがあるかと思えます。その横に駐車場がありまして、その  
下のほうに台形で白っぽく入り口みたいなのが見えると思えますけれど、  
これから工事用の車両は入れます。主にこちらのほうから入れます。た  
だ、上のA棟とB棟につきましては、今テニスコートを解体しておりま  
すけれども、テニスコート部分とグラウンド部分の高さが異なります。  
したがいまして、3台のくい打ち機のうちの1台は上側のほうから搬入  
路というか、区切りをつけまして、こちらのほうからくい打ち機を入れ  
るようになっています。

山田伸幸委員 工事の手順をお聞きしたい。くいは一度に搬入してしまうのか、  
それとも工事の進捗状況に応じて搬入されるのでしょうか。

平田成長戦略室職員　くい工事につきましては5月の末までを考えておりますけれども、議会承認で業者さんが決定いたしますと、くい屋さんのほうに発注書を書かれます。くいの製作に4か月ほど掛かるというふうに聞いておりますけれども、半分の2か月ぐらいが経ったところで、くいができるように思いますので、このころからくい打ちを始めたい。くいの搬入につきましては、現場の状況にあった形で、次々と持ってきまして、現地で長く置くということは考えておりません。

大井淳一郎委員　この議決を早めて、少しでも早くくいの発注等したいということなんですが、先ほども答弁がありましたけれども、その発注の時期とか、あるいはくいが入ってくる、そして建築主体工事に至るまでのタイムスケジュールをお示してください。

平田成長戦略室職員　くいの発注時期につきましては、これは受注されたゼネコンさんのほうからの注文になるので、何日というわけにはいきませんが、あらかじめ材料は、図面とかの材料は持っておられますので、14日と聞いておりますけれども、議会のほうで承認をいただいた後、直ちにくいの発注をしていただけるであろうと、そうは言っても、くいを発注しても、受注者のほうで、いつ頃からくいの図面を起こしたり、その承認を求めたりということで、やはり製作までには少しなりの時間が必要だと思います。製作には恐らく、早くて年内、遅くても年明けには製作に掛かって、随時作っていくであろうと考えております。それから2月の初旬、中旬くらいからくい打ち工事を始めますけれども、くいを打ち始めて、くいは打ち始めると、後ろというか横というか、どんどんどんどん逃げていって、打ち終わったところがあります。しかし、全部のくいを打ち終わるまで土工事、掘り方を進めないというのは実にもったいない話でございますので、くいを打って、掘り方ができるようなところから順次進めていただきまして、その後の掘り方の完了を5月の末ぐらいで考えています。そして、5月末の掘り方の完了に合わせて、合わせてということではないんですが、それも、今度は基礎工事という



のが入ってきますので、片や掘り方を進め、片や基礎工事をやるという形でどんどん進めていくような形になります。

大井淳一郎委員 今回落札した業者が嶋田、ヘキムラ、エム・ビー・オーシステムなのですが、これとは別に、全く別の状態で建築主体工事、電気設備、機械設備を入札していくと。よく企業同士の相性というか、そういうのはあると思うので、もう全く別物として入札するという事によろしいですね。そこを確認したいと思います。

平田成長戦略室職員 別件工事として発注しようと考えております。

山田伸幸委員 本会議でも出たんですが、やはりスケジュール的に平成30年4月というのが必ず完成が待たれるところなんですが、くい工事を早めに出すと、そのほかのもので早めに取り掛かれるものというのはどういったものがあるんでしょうか。

平田成長戦略室職員 そのほかに取り掛かれるものというのは、危険物倉庫であったり、自転車置き場であったり、後ろのC棟であったりという、規模の小さいものについては工期が掛かりませんので出せるんですが、ダイレクトに工期を決めているのは、やはりA棟とB棟の工事の進捗ということになりますので、その中で、じゃあ何を先にやるかということになりますと、例えばく体工事のく体がどんどん上がっていきます。通常は上の床の荷を受けるがためにサポートというのを養生期間として置くんですけども、このたびは既製品のコンクリートを使いますので、サポート養生もサポートも要らない関係から、早めに内装工事のほうの間仕切り工事であるとかいうのが途中から入っていけるのかなというふうに、工期の短縮というか、できるだけ短い期間でことが仕上げられるような手法を取っております。

山田伸幸委員 以前の説明で、壁等はコンクリートを流し込んで打つのではな

くて、既に工場でパネルに仕上げていることなんですが、そういった工法というのは強度的にですね、全く問題がないのか、ちょっと私たちでは分かりませんので、その点について説明してください。

平田成長戦略室職員 中の間仕切り壁はパネルを持ってきて使うところと、それからLGSというんですけど、小さな軽い鉄のC型をしたバーを持ってきて組み上げてやる工法と大きく分けて二通りになります。それについては、耐震的なものは全く考慮しておりません。このたびの耐震につきましては構造体で全て受けるようにしておりますので、中の間仕切りについては軽いものでございますので、耐震的な心配はいらぬというふうに考えております。

山田伸幸委員 じゃあ、本体は鉄筋か鉄骨かどっちかで仕上げていくということでしょうか。

平田成長戦略室職員 本体工事は、A棟、B棟は既製品のプレキャストの鉄筋コンクリートです。もう既製品での鉄筋コンクリート。それからC棟につきましては、現場で施工する鉄筋コンクリートというふうにしております。

大井淳一郎委員 くいとは若干離れるかもしれませんが、この前A棟からC棟まで工期というのが二つ、三つという話があったのですが、A棟はゼネコンとか地元業者、その辺の役割分担についてある程度方針が出たのでしょうか。くい打ちとも若干関連すると思うんですけど。

平田成長戦略室職員 業者さんのそれぞれの役割分担につきましては、まだ決まっております。

岩本信子委員 これで市内業者を使うということで、一応この市内の業者だと思わうんですけど、例えばくいの原料ですよ。それはやっぱり市内で

作られたものを使うとか、そういうふうな指定とかは多分されているのか、されていないのかは分からないんですけど、その点はどうなんですかね。市内業者というところから見るとどんな感じなのかなと思いました。

平田成長戦略室職員　くい材料につきましては、市内にジャパンパイルという大手の業者がいらっしゃるので、お知恵を拝借したり、いろいろなところで相談に乗っていただいたりということで進めてまいりました。ただ、私のほうがそう思って市内のパイル屋さんを使いたいと思っても、やはり市内業者さんのほうでの今までのお付き合いがあるとか何とかということで役所としては強制はできないんですけども、市内業者を使ってくれということで、一つそれなりのプッシュはいつもしております。

大井淳一朗委員　じゃあ今回は結局どうなるんですか。市内の業者のくいを使うのかどうか。

平田成長戦略室職員　今のところ私の頭ではジャパンパイルでいかれるのだろうなというようなところではあるんですけども、また材料承認とか承認願とかいうことが出てきますので、その時点でまた別のところであれば、またちょっとプッシュはちょっと強くなるかなというところだと思えます。

中村博行委員　工事全体の、まあ皆さんが一番心配されているのが間に合うのかということなんですけども、このくいも含めて、資材の確保、あるいは人夫といいますか、そういう人の確保、そういったことは既にある程度めどが立っているのかどうかお尋ねしたいと思います。

平田成長戦略室職員　あらかたのくいであるとか構造体まではあらかたのめどは付いているんですけども、これから内装工事に入っていきます。それぞれA棟が1万平米、B棟が1万平米というところ、3で割りますと約3、

000坪ぐらいのところを下から順番に組み上げていかなくちゃならないということで、かなりの内装屋も必要としますし、内装屋が今度決まるとその中で空調であるとか、照明であるとか、更には研究用の機器が据わってダクトであるとかということがあって、恐らく11月、12月ぐらいのときは人工の手配もあるんですが、現場のふくそうする交通整理、これがすごく大変になるのではないかなというふうに考えております。

山田伸幸委員　なかなかそのハード部分については、私たちは素人ですのでよく分からないのですが、採光、明かりのことですね、以前この委員会で塚本氏が言っておられたのですが、明かりというのは外光ではなくて照明によって取るんだ、それをメインにするんだということを強調されたのですが、現在もその考えなのでしょうか。

平田成長戦略室職員　これは向こうの東京理科大の教授ともこの件については、随分話しを進めてまいりましたけども、休憩をしているとか、そういったところについてはとにかく通風であるとか採光であるとかいうのはとにかく欲しいと。それから、今C棟である動物舎辺りについては、これはほとんど光を入れてはいけないということがありましたので、C棟の動物舎については、窓は設置しておりません。その辺の研究の内容によりまして、窓があったり、なかったりということで一応教授陣と話をしながらこの設計を進めました。

山田伸幸委員　肝心なのは教室といいますか、実際に学生たちが講義を受けるようなそういったところはどのようなふうな状況なのでしょうか。

平田成長戦略室職員　こちらの研究室については大体のところは窓がございます。要らないと思っていたところも窓を付けてくれということがありましたので、ほとんどの研究室には窓があります。暗さにつきましてはブラインドであるとか、暗幕であるとかいうことで調整するというふうにしております。

長谷川知司委員長 興味があると思いますけど、くいのほうに専念していただいていただけると。

大井淳一郎委員 質問したいのは2点ありまして、工事中ですね。体育館の付近を工事車両が通る。それから第一食堂とのこの間も場合によっては通るかもしれないので、その安全対策ですね。学生に対する安全対策。それと2月からくい打ちをされるとのことですけども、ちょうど入学試験があると思うので、その辺の騒音対策。その点についていかがでしょうか。

平田成長戦略室職員 まず、仮囲いという安全の施設を囲いますけども、これは山口東京理科大の事務局のほうと打合せをしております、この辺りで学生と工事の車両の区分をしたいということでやっております、一応動線的には交わることはないんですけども、運動場、今既存の駐車場になるところなんですけども、今山口東京理科大学の駐車場の台数が非常に不足しております。したがって、この運動場の右下といいますか、ここに入れない車を入れたいと思いますので、その車が体育館の下側に上がっていく階段から車の利用者が体育館の下のほうに階段で上がっていくんですけども、ここらは一応通行人と工事用の車両が交錯すると。ここにつきましては、一応交通誘導員を付けまして安全の徹底を図りたいというふうに考えております。それから入試のときでございますが、一応この日センター試験、それから本学の入試、この日は工事を止めるように考えております。

大井淳一郎委員 細かいことで恐縮なんですけど、それとは別に大学内での単位を取るための試験とかもあるんで、その辺はどうなっているんでしょうか。

平田成長戦略室職員 先ほどくい打ち機のほうがほとんど音がしないというこ

とでお話しましたけれども、一応中の試験であるとか授業であるとか、私も今あちらで作業しておりますけれども、危惧するほどのことではないというふうに今は認識しております。

山田伸幸委員 どちらにしても工事となると、そういった工事車両あるいは工事に当たる工事人夫の皆さんの手配等、やはりいろいろ地域との接触も出てこようかと思うんですが、そういった地域への説明会等、工事に関わってね、それはされるんでしょうか。

大田成長戦略室長 したいと思っております。市長と協議します。

杉本保喜委員 くいについてまたお尋ねするんですが、この図面でいえば下のほうの両サイド、それからB棟のこの図面の下のほうの両サイド、これがA棟のほうは3本組み、下のほうは4本組みというふうになっているんですよね。これまあ重量の関係もあるでしょうけど、どのような差異をもって一つ多くするというような基準になっているんですか。

平田成長戦略室職員 これは構造計算の手法ということですか。それとも…

杉本保喜委員 その辺あるだろうと思うんですが、いわゆる1本足さなければならぬという基準ですね。重量がどのぐらい掛かる、これ以上掛かるようであれば1本足しますよというようなことがあるんだろうと思うんですけれども、基本的にはA棟もB棟もほぼ同じではないかと、外郭いえばですね。そうしたところから見た場合に、片や3本、片や4本ってどの辺の違いがあるんですかという質問なんです。

平田成長戦略室職員 これは今この絵の中には見えていないんですけど、研究機器固定備品というのが入るんですね。重たい研究機器が。これによって床荷重にそれが乗ったときの重量を加算をして、そして柱1本の、1階の柱に、いくなれば地下のほうにどれぐらいの荷重が掛かるかという

ことを計算してやりますので、研究室によって単位重量がそれぞれ皆違いますので、計算がそれぞれ、たまたま4本で収まっているところもあるし、3本で収まっているところもあるというところですね。

杉本保喜委員　そうすると研究機材がどこに置くという前提の下に、くいの数が決めたという話ですね。

平田成長戦略室職員　構造設計に当たりましてはくいだけでなく、構造体の床のはりの大きさであるとか柱の大きさであるとか、ということは全て全荷重を想定して構造計算を行います。

吉永美子副委員長　いよいよ薬学部の校舎等について建設が入っていくわけですが、当然現場監督は置かれるとは思いますが、行政としてこの建設、今回はくいなわけですが、建設状況、途中での状況の確認、また出来上がったときの確認、どのようにしていられるのでしょうか。

平田成長戦略室職員　建築基準法としての現場監理につきましては今工事監理ということで外注をさせていただこうと思っております。ただ私のほうの理科大のほうの職員の役目としてはオーナーとしてこれでいいのかどうかという立場の中で今のそういった施工業者さんであり、それから設計事務所さんを介して行う現場監理であるというのを総括的にやることになります。これに加えて先ほどから出ております研究機器の設置等もありますので、これも含めながらかなり細かいところまで中に入って、ああだこうだという協議を進めながらやっていくようになります。

杉本保喜委員　確認なんですけど、3者が入ってやるということなんですけど、この窓口は、嶋田工業と考えていいんですかね。

平田成長戦略室職員　嶋田工業が頭の窓口になっております。

長谷川知司委員長 私から何点かお聞きします。くいの長さが先ほど言われたんですけど、これには書いてないんですが、くいの長さが22メートルでいいんですか。

平田成長戦略室職員 今この図面の中ちょっと見えにくいんですけども、柱の基礎の4本とか3本とかある、その下に三角印が書いてあると思うんですけども、あれにくいの長さが書いてあるんですよ。（笑声）私もこれ見ると見えないと。基本的には先般もお話しましたように海の側から山の側の雀田の小野田線に向かってくいが沈んで入ってきております。正確には三角で書いておるのが、くいの長さです。済みません。

長谷川知司委員長 ちょっと大体何メートルから何メートルか言っていただくと助かりますが。（「コピーしてきましょう。A3で」と発言する者あり）

山田伸幸委員 くだらん質問で申し訳ないんですけど、現場事務所というのをどこかに建てんといけんと思うんですが、その辺は最終的な工事まで含めて作っていかれるお考えなのか、それとも別々に発注されるというんでそれぞれに事務所が設けられるのか、その点いかがでしょうか。

平田成長戦略室職員 役所の工事発注をするときの単価構成といいますか、それは一つのくくりになっているんですね。ですからくい工事については共通仮設費という項目になるんですけども、この中で現場事務所が要るよとあれば何か月間のことで現場事務所を建てて終わりですよ。それから建築を出したときには建築の共通仮設費の中で工期何か月のときには現場事務所が要りますねというような出し方になります。ですから発注の形態としてはそれぞれのくくりになるんですけども、あとそれを譲り受けられるかどうかというのはまた業者さん同士の話になって我々はその辺については精算という形で対応するようになります。



岩本信子委員 前も言われたのかなと思うんですけど、危険物倉庫ができますよね。この危険物ってどんな危険物が入るんですかね。

平田成長戦略室職員 危険物倉庫とありますけれども、半分は汚水処理施設なんです。これあの薬学部棟ですので、下水に直接流せない薬品を流します。そういったものをとりあえず危険物倉庫にある汚水処理施設のほうに送り込みまして、2次処理をした後に下水道に放流ということに考えております。この危険物倉庫につきましては、あとは業者さんでないと処理してもらえない、18リットルの缶かんであるとか劇薬であるとか一般では取扱いができないようなものは業者さんに来て取りに来ていただくんですけども、そういったものを収納する倉庫と考えていただければ結構です。

岩本信子委員 爆発物みたいなものはないんですね。

平田成長戦略室職員 皆さん御存じのように心臓に使うニトロ、何か飲むということがありますよね。あれなんかも濃いやつは爆発するんですね。ですから薄めて希釈してやっているのがニトロ飲むってよく言っているんで、ここには5階部分には防爆研究室みたいなものがありまして、そういったものの原液がきたときにはやっぱり爆発する可能性があるということで、最上階にはそういった研究室もあります。

杉本保喜委員 確認ですけど、今危険物の倉庫ということで、そこにダブルで2本くいのところが4か所ありますよね。その部分にそういうタンクが据わると考えていいんですか。

平田成長戦略室職員 当然二次処理ですから、一旦貯留槽を設けて、またそれを希釈してということで、やっぱり水槽がかなりの重量になりますので、機械重量並びに水槽の重量が掛かるということで御理解いただければと思います。

大井淳一郎委員　くいを打つんですが、具体的にどの辺りからくいを打っていく形でしょうか。重複する。さっき言っちゃったかもしれんけど、お答えください。

平田成長戦略室職員　まず先ほどテニスコートとグラウンド面で段差があるというふうに申しました。3台というふうに言っておりますけど、ジャパンパイルさんと相談したら3台しか準備できないということがありまして、3台としてるんですけども、やる順番につきましては、A棟、B棟と書いてあります。それからあるところから左半分になりますけども、グラウンドの端から第1食堂のほうに、だんだんくいが逃げていくのかなと。打った瞬間、重機が逃げていくのかなと。その反対であると逆にくいを打ち終わったときに、今度は重機の逃げる場所がなくなりますので、一応中央部分から左、それから中央部分から右に向かって重機が逃げていくのかなということを思っておりますので、打つ順番としては、中央部分から外に向かって打つというような形になるかと思えます。  
（発言する者あり）A棟とB棟の右側とC棟については、だだっ広いグラウンドになりますので、C棟につきましては、右側にずっと後ろに向かって、後ずさりをしながら逃げていくのかなというふうに思っております。

長谷川知司委員長　関連で申しますますけど、今3台ということですが、本体工事が何社かまだ聞いておりませんが、取り合いとなったり、あるいは間に合わんから本体業者が自分でくい打ち機を段取りするとかいう可能性はないですか。

平田成長戦略室職員　くい打ち機については、業者さんがジョイントベンチャーとあって、一つの会社組織みたいなものを作るんで、このくいの全部については、その今回請け負われた業者さんがやられるんで、それぞれが3社ございますけれども、その3社が別々に打つわけではなくて、その段取りの中でやるんで、取り合いというのは、くい打ちについてはな

らないと思います。

長谷川知司委員長 く体工事の業者が1社ならいいんですけど、分かれたときに取り合いで先にせえとかいうことはないですか。

平田成長戦略室職員 今危惧しておるのは、く体工事に入ってから危惧しておりますのは、製品ができるできないというよりも、むしろ重機とオペレーターの数で、これが少し心配ではある。数として心配なんです。ですからそこでは中で取り合いになったりけんかになったりで、けんかになったりという失礼なんですけど、ないというふうに思っておりますけれども、その辺の調整は、やはり私のほうで、やってあげないといけないなというふうに思ってます。

長谷川知司委員長 タイトな工期ですからね。少しでも早くしたいというのが、皆く体業者は、言うと思いますので、続けて仮設工事ですけども、仮囲いにつきましては、これはくい工事が終わりましたら、撤去それで後の業者がするというふうに考えておったんですか。それともくい業者があと引き継いで、く体業者に渡すということを考えちゃってですか。

平田成長戦略室職員 それは、仮囲いにつきましては、一応工事としては全損作って、仮囲い工事ということで、作ってくださいなという発注をします。後の片付けについては、市のものですから、その時期については、また後日考えるということで、基本的には後で躯体工事をされるところ若しくは後で外構工事をされるのであれば、そのほうで片付け代とこのを見て、発注するようになるのかなというふうに思っております。

(資料配布)

大井淳一郎委員 今、図面が届きました。皆さんもそこで皆言ってたんですけど、くいの長さが違いますよね。結構違いますが、その原因を一応説明して

ください。

平田成長戦略室職員 以前にもお話してるんですけども、古洞の深さによって、このくいの長さが決まりました。前にも申しましたけども、上側に向かって全般的に沈んできておりますので、何かあったりするのは大体平均的には山側のほうが深くて、海側のほうが浅いということになってます。それと右側のほうが深くて左側のほうが浅いというような形になっております。

山田伸幸委員 改めて確認なんですが、今日通常の審議ではない時間に審議を入れ、今度14日に採決が計画されてるんですが、今回こういうふうに議会が特別な配慮をして、スケジュールを早めたとして全体に対する影響というか、どの程度稼げるんでしょうか。

平田成長戦略室職員 非常に回答しにくいんですけども、私のほうのくい打ちの発注で、成長戦略室から工事を出しますよと言ったのが、工事を発注しますと言って、起工伺いを出したのが10月2日なんですね。それで議会で決まるとして、12月14日。2か月半というのがすごい何かこう時間が掛かってるんですね。現場の声として聞いていただければと思うんですけども、これがもう少し短くならないのかなと。それでなくても短い、短いと言われてるときに。それから18日に業者さんが決まって、今日の提案と14ということで約1か月ほど掛かってるんですけど、現場としてはこれもちよっとじれたい時間であったかなというふうには思ってます。これはあくまでも現場サイドの声として。

杉本保喜委員 今ざっと見てくいの長さは17種類ぐらいあるようなんですが、これ見るとですね、これでもって大体その深さが分かるんですよ。そうするとこの一番多い数、何メートルが一番多いんですかね。逆に言えばですね、一番長い数が多いということは、かなり深く掘らなければ地盤にいかないという考えになるんですけど。今見ると24メートルが一

番長いように思うんですけど、一番短いのが8メートルですよね。

平田成長戦略室職員 ちょっとこれ図面からぱっと見で拾ってるんですけども、A棟につきましては、くいのが長さが21メートル、22メートルというのが27本、17本ですね。21メートルが27本ありまして、18メートルというのが26本、15メートルというのが38本ございます。  
(発言する者あり)

長谷川知司委員長 A棟一番長いのが、24メートルが右側のほうにありますね。これは古洞を突き抜けていくということですか。

平田成長戦略室職員 そうです。

杉本保喜委員 よく建設工事を見てると、くいを打ち込んだ後、くいを切ってしまうというところもあったんですけど、今回の場合には全部打ち込んでこれでやるという話と考えていいんですかね。

平田成長戦略室職員 そのような工法で考えております。しかしオーガって言うんですけども、くい打ち機のきりでもんでも、どうしてもずるずるして、そこから入らないということが、土中のことなんで、そういうのもしばしばあります。ですからそのときについては、古洞が下に確認できておるときには、どうしても下まで抜かなきゃいけないんですけども、古洞が周りに確認してないということであれば、浅く止めることもあります。ですから切ったりすることについては、どうしても下の土の状況といいますか、段が出てくるとどうしても止まってしまうので、その辺ではゼロとは言い切れません。

長谷川知司委員長 ほかにございませぬか。（「なし」と呼ぶ者あり）意見も出尽くしたと思います。それでは議案第128号について、討論、採決を行います。まず討論を行います。討論はありませぬか。

山田伸幸委員 理科大学については、以前から指摘をしてきた住民への説明会というのは、今回工事の事前説明という位置付けでしかありません。やはり全体の市民の理解を得る、そういった努力がまだまだ不足をしております。やはりかなり無理をしたタイトな日程になっておるといこともですね、知らせないまま来てるのはやはり問題があるということ指摘して反対とさせていただきます。

長谷川知司委員長 ほかに討論はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）以上で討論を終わります。これより採決をいたします。本議案に賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

長谷川知司委員長 賛成多数ですので、議案第128号は可決すべきものと決定いたしました。以上で委員会を終わります。

---

午後1時52分閉会

---

平成28年（2016年）12月6日

山口東京理科大学薬学部設置促進

並びに利活用調査特別委員長

長谷川 知司